

ポスターセッション 13 日本語指導が必要な高校生用社会科副教材の開発から —教科教育専門家・日本語教育専門家による協働実践—

武一美（認定 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ）・細井和代（元神田外語大学留学生別科）・青柳方子（元日本語学校）

尾崎則子（元佐野市立葛生中学校）子どもの日本語教育研究会第 5 回大会・2020 年 3 月 14 日（日）10：00-11：00・於 お茶の水女子大学

- ・日本語の初期指導で基礎ができたとしても教科学習につなげることは容易ではないと感じていた。
- ・日本語指導が必要な生徒への教科指導は、担当者間の共有や蓄積が難しいことが気になっていた。



副教材の開発

教材開発の方針

1. 「中学校の歴史教科書」をわかりやすく伝えるための補助教材とする。
2. 日本語指導が必要な生徒にとって容易に読めるような工夫をする。
3. イラストを配することにより、日本の歴史に興味を持てるようにする。
4. 内容は情報量を最小限にし、見開きの字数を 400 字～600 字に限定する。
5. 日本語指導が必要な生徒が読みやすいように漢字には全てふりがなをつける。
6. 翻訳文（中国語・英語）を併記して内容を理解しやすくする。

作業の手順

1. 社会科教師が「中学校の歴史教科書」をもとにした説明文を作成する。
2. 日本語教師 3 人が、日本語指導が必要な生徒にとって、その文章が読みやすい表現になっているかどうか検討する。
3. 全員で繰り返し読み合わせをして推敲する。

教科教育専門家の視点

1. 歴史には様々な解釈があるが、基本的な歴史を学ぶためには「中学校の歴史教科書」が資料として最適である。
2. 「中学校の歴史教科書」にある基本的な歴史の知識は、生徒たちが現代の様々な社会問題を考える上で力になる。また、外国籍の生徒が日本と自分の国との関係を考える上でも役に立つものである。
3. 日本語指導が必要な生徒にとっては教科書の記述は内容が多く難解な表現も多い。副教材の内容は教科書の 5 分の 1 程度の情報量に精選する。「教科書のあらすじをつくる」というスタンスで作業する。細かな歴史用語にこだわるよりも歴史の流れを把握させる。
4. イラストは手描きの人物画を中心に歴史が人間の生活の連続であることをイメージさせる。

日本語教育専門家の視点

基本方針：対象生徒たちが日本史を知ることに関心を当てるため、その他のことではつまづかないよう、説明文は、多少不自然でもできるだけ簡単な表現にする

1. 使用語彙はできるだけ『進学を目指す人のための教科書につなげる学習語彙 6000 語』（中学・高校生の日本語支援を考える会、2011）の中にあるものとする。
2. 複合語・使役・受け身表現は極力使用しない。
3. 長すぎる連体修飾は避け、文の長さは 60 字以内にする。

【言い換えの具体例】

煮炊き→料理、生き抜きました→生きました

切り離されて→分かれて、伝えられました→伝えた

中学における活用

国際教室で使用。国際教室教師によるアンケートの自由コメント記述は次の通り。「日本の歴史に興味を持てず、授業中もずっと寝ているという話だったので、まず最初からページを飛ばしながら要点を日本語で言い、それにあたる文を読ませ、概略がわかったところで、テスト範囲の内容の中国語文を読ませて内容を対応させた。用語の意味がわかったので、在籍校の授業で使うワークシートに単語を記入することができた。」（原文の一部）

高校における活用

神奈川県 6 校で使用。使用した社会科教師にアンケート（2020 年 2 月実施）。5 人の教師が回答。

- ・日本史授業（日本語指導が必要な生徒の取り出し、週 2 時間）で使用され、使い方は様々であった。
- ・アンケート項目：「生徒が日本の歴史に興味・関心を持つのに役に立ったか」への回答：5 人中 3 人「とても役に立った」、5 人中 2 人「まあまあ役に立った」

まとめと今後の展望

本教材は日本語教育専門家と教科教育専門家の協働作業により開発した。少数ではあるが、国際教室や高校の取り出し授業で実際使用され、指導の一助になっていることがアンケートによって確認された。多くの現場での使用とフィードバック、それを参考にした改良や開発という往還により、さらなる協働が生まれると考え、本教材を HP で公開する。